

令和2年度 第1回高梁市地域包括支援センター運営協議会（報告）

日 時 令和2年6月30日（火）

午後1時30分～

場 所 高梁市役所3階会議室1

（進行）高原課長

1. 開 会 1:30～1:45
2. 委 嘱 状 交 付 式 机上に準備。名前の読み上げを課長
3. あ い さ つ 蛭田部長
4. 会長・副会長の選出
事務局案により、会長に仲田委員、副会長に渡邊委員選出、承認
5. 令和2年度 第1回高梁市地域包括支援センター運営協議会
協 議 事 項 仲田会長進行 1:45～
(1) 平成2年度 高梁市地域包括支援センター 運営方針 石村 1:45～2:00
 - ・ 地域包括支援センターの体制
 - ・ 本市における高齢者と介護保険の状況
 - ・ 介護予防・日常生活支援総合事業

質疑

2:00～2:05

仲田会長：地域包括ケアは車の片輪が医療系、もう一方が介護系でその上に医療や介護が必要な住民を上手に乗せて走るイメージでとらえている。その中で在宅医療を進めようと話し合いを進めているが、今の資料では在宅での生活が減っているのではないか？訪問看護がヘルパーの役割を担っている状況がある。ヘルパーの数が少ないということか？

事務局：おっしゃるとおりヘルパーのなり手が少なく、特に西部地域は事業所が社会福祉協議会1か所しかない。ヘルパーは要介護の人に手を伸ばしたいという現場には現場の事情があり、要支援の人がヘルパーを使うことがむずかしい場合もある。

仲田会長： 結局、絶対的な人手不足ということが背景として大きいということ。

医療系でも看護師が本当に不足している。看護師の高齢化で定年間近が約

1/3～1/2、2025 年が来る前に閉鎖されるのではないかという危機に直面している。在宅介護医療連携協議会では県内の看護師養成学校へ訪問等行い、高梁の病院の紹介等を 3 年ほど続けている。以前よりは若い人の入職が増えたがまだまだ足りない。人手不足をいろんな学校へ話していく。

介護福祉士は学校でも定員に足りない印象を受けた。若い人が介護福祉に目を向けてくれていない。介護の仕事の魅力発信が必要ではないか？私たちの思いを若い人に伝えるプログラムを組む必要があるのではないか？

松原委員：介護は危機的な状態、看護も足りていない、そもそも母数となる高校生も減り、看護師を目指す人も減っている。社会福祉士はもっとひどい状態で、業務独占がない状況で地域包括支援センターに必置というのがやっとで、資格を取らなくても仕事を務められる状況で全国的に学校も減っている。医療・福祉が連携しながら魅力を伝えていく取り組みが必要と思う。

仲田会長：そのような計画も含めた新しい時代への対応の仕方を考えていく必要がある。

林委員：十分な人員を抱えてやっている状況ではない。福祉は人手不足、介護職員の処遇改善の手当はあるが若者のなり手が少ない。介護職は評価されていない印象がある。国の施策が採用に直結していないと思う。

仲田会長：次の計画に人材確保等が反映できるように検討していただきたい。

介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士いろんな職種があり、一般の人でも職種の違い、特色がわかりにくいのではないか、魅力も伝わっていないのではないかと思われる。

嶋田委員：訪問介護で言えば県でも指定の事業所で従業員の年齢をみるが大体 70 歳以上を超えている人がヘルパーとして役割を担っている。新規採用の方を募集するのも重要だが、併せて少子高齢化でそもそも子どもが少ない。元気高齢者、主婦層にも介護に入ってもらえる施策を検討していく。8 期計画では介護人材の確保を県でも計画に盛り込んでいく。市も計画に盛り込むことになっている。

(休憩) 5 分 プロジェクターセッティング

- | | | |
|-------------|----------|---------------|
| (2) 令和 2 年度 | 重点的な取り組み | 各担当 2:10～2:45 |
| 1. 2 | 大福主幹 | |
| 3. 6 | 森本係長 | |
| 4. 5. 7 | 内岡主幹 | |

DVD（通所付添、パワーポイントを使用して説明。

質疑

2:45～2:50

仲田会長：1，2番新しい取り組みがあり、期待したいと思う。巨瀬の地域住民主体とした新しい取り組みはぜひ成功して次に取り組む地域が勉強に行けるようになっていけばと思う。

太田委員：生活支援体制整備事業は、2層協議体で位置付けるとしているが、落合地区でも立派にされていると思うが、時々参加して、確かに地域資源やニーズの見える化をして結果を集約されたがいかがされていないと思う。福祉の組織体の仕組みが役割として機能していない。阿部、福地、原田あり、3層協議体にそれぞれ特色があって統一してやれない部分もある。十分に活動できていない実態があるのではないか。

福祉に携わる人間の姿勢、見方を考えないといけない。上から目線で物を見る、全くなっていない。指導を市の方でもしっかりやっていただきたい。

事務局：それぞれの地域の実情を理解しないと有効な施策には結びつかない。そのため今年度は2層コーディネーターを専任で配置している。地域で開催する話し合いの場では2層コーディネーターを中心に包括の地区担当も参加しそれぞれの地域の実情を十分に把握したうえで地域ケア会議にのっとなって進めていきたい。

竹谷委員：病院によってはすぐに施設に入れたり、系列の事業所のサービスを結びつけるなど、ケアマネの立場が全くない状況でサービスが繋がれてしまい少し悲しい気持ちがある。家族は病院と協議しているのだろうが、病院の指示は絶対的な感じでほんとの気持ちが言えないのではないか。施設入所しなくてもまだ家で生活できる、ご主人が待っておられるのにケアマネに相談なしで施設へ入れられることがあり、在宅医療・在宅介護といわれているのに方向性が違うのではないかと思う。できるだけ住み慣れた家で生活できるように支援したいと思っている。

仲田会長：退院時のケアカンファレンスでケアマネの意見が尊重されるように、また準備段階で意見交換を十分にできるようにお伝えしたいと思う。

岸委員：個別会議について、私も参加しており、頑張ってください。業務の端々でこの方は私が後見についている方の家族にも支援が必要と感じることがあり。問題が出てくるので1つ1つ対処するしかないと思っている。後見登録をしてくださっている方も含めて、たくさんの地域の高齢者がどうしたら住み慣れた地域であんしんして生活していけるか心を砕いている専門職がたくさんおられるので、ぜひ、個別の会議をもっと積極的に使っていただ

いて私も呼んでほしい。心配な方がとても多い。多職種連携会議を開いて市の職員にも間を取ってもらいたい。

(3) 令和元年度事業報告及び決算報告並びに令和2年度 事業計画及び予算

石村

2:50~2:55

質疑

太田委員：配食サービスの1食450円、ちょっと上げすぎではないかと思う。一人暮らしで、子どもも出て行って・・・私の個人的な意見です。

渡邊副会長：今年の重点的な取組の中で、通いの場とか住民の協力がなくては成り立たない部分がたくさんあると思う。巨瀬は地域住民が手を携えて協力して模範的なことができている。行政から市民の中へ入って行って意識改革に力を注ぐことが必要と感じている

小地域ケア会議は、一人ずつ地域の問題を出す、草刈りの問題、人間関係の問題等あり、集約に苦心している。社協の問題もあるが民生委員・福祉委員の連携によって網の目を細かくしていろんなことの情報収集していくシステムを完成したほうがいいかと思っている。

松原委員：施設の人材不足について、ある特養で人材不足でこれ以上有資格者を採用するのは限界ということで、介護の仕事の分析をした。介護以外の掃除、洗濯物畳みなど生活環境整備等がたくさんあった。それを近所の主婦層に有償ボランティアで、してもらっている。身辺介護、介護補助としてしまうと人は集まらない。掃除、利用者の服を畳むなど具体的に示すと結構、人が集まる。介護福祉士が本来すべき業務に専念できる。

自分の事業所に介護サービスをくっつけてしまうことについて。

自分の事業所の収入をあげるので必ずそういうことは起こる。介護予防のケアマネジメントは利益誘導にならないように、きちっとケアマネジメントするように保険者としての責任で監視していくと利用者の介護状況により適した介護サービスが提供されていくのではないかと思う。

(4) その他

4. 閉 会

3:15

渡邊副会長

貴重なご意見をそれぞれの立場でたくさんいただいた、中身の濃い会議であったと思う。地域包括支援センターの今後の方向性として今日の意見を十分に生かした形で検討いただくようお願いしたい。